

令和4年度第4回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 令和4年8月10日(水)13:00~14:10

2 場所 福知山公立大学4号館4階会議室

3 出席者

委員	(リモート参加) 青山委員、大久保委員 (会場参加) 菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	田村室長、谷口次長、井上補佐、川村、吉田
福知山公立 大学	川添理事長兼学長、西田理事兼副学長兼情報学部長、倉田地域経営学部長、 岸本事務局長、山中GM、内田GM、荻野GM、竹元AM

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 令和3年度及び中期目標評価に係る公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価結果について	事務局から【資料1】から【資料3】により説明。
2	【その他(1)】 積立金の処分に係る中期計画に定める使途に充てられる額の承認について	積立金の処分に係る中期計画に定める使途に充てられる額の承認に係る事務局確認事項を報告。 ⇒積立金の処分に係る中期計画に定める使途に充てられる額の承認をすることについて委員会として適当と判断。
3	【その他(2)】 評価基準について	事務局より資料により説明。
4	【その他(2)】 意見交換・質疑等	■ 本日の意見を参考に事務局において評価基準の案を作成し、年内に開催する評価委員会で基準を決定する。

5 次第

(1) 開会挨拶 青山委員長

(2) 議題：令和3年度及び中期目標評価に係る公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価結果について

(事務局)

【資料1】から【資料3】により説明。

(委員)

評価について、数値目標がある項目は評価しやすかったが、数値目標がない項目は評価が難しかった。評価「5」はどういう実績のときにつけるのかという基準が分かりにくかった。

(委員)

教育研究等の質の向上については、専門外の分野であったため、内容を読み取ることが困難な中、評価しなければならなかった。この6年間の中期計画(中期目標)の達成に向け順調に進捗しているという結果になったことについて、改めて大学が大学らしくなっているという認識ができた。今後、大学のさらなる成長に期待をしたい。

(委員)

令和3年度の年度計画の実績において初めて自己評価で「5」があった。大学として自己評価「5」となるほど頑張ったということであるため、素晴らしいと感じた。法人の自己評価と同じく評価委員会においても、中期目標期間の6年間の成果が小項目別評価の積み重ねで「A」となった。教育、研究、地域協働の質の向上について、同じ1つの事業でも計画策定の段階で、教育にとってはどうあるべきか、研究にとってはどうあるべきか、地域協働にとってはどうあるべきか、という目算をもって取組んでいただければ、評価もしやすくなるのではないかと感じる。

(委員)

学生も教育、研究、地域協働のそれぞれの視点を持って授業に取り組むと結果が違ってくる。地域協働において、学生が地域でフィールドワークをするだけでなく、フィールドワークをしたことで地域が何を得るのかということを考えることは重要である。

(委員)

福知山公立大学の開学前から大学に関わらせていただいている。大学は達成が困難と思われるような中期目標をやり遂げたと感じている。これまで業務実績については評価委員会として厳しい評価をしてきたが、中期目標期間の6年間の評価については、委員会でも審議がスムーズに進んだ。これは法人の自己評価と評価委員会の評価がほぼ同じであるということ。市民委員の方の評価は、地元の評価を代表するものであると考えている。今回、市民委員の方が大学とほぼ同じ評価をつけられたことで、地元の評価も高くなっていると考え。第1期中期目標期間は非常に努力いただき、学生、地域に見えるかたちで成果を示せた。1点申し上げるとすれば、実績報告書の業務の実績にまだ再掲があるところ。業務の実績はそれぞれの項目の観点で記していただきたい。

(委員)

教育、研究、地域協働に福知山公立大学が頑張っており、それをさらに進めていくことが「福知山モデル」につながる。社会の変革により、福知山のような小さなまちでも大きなことに取組める。福知山公立大学の取組は他の公立大学の模範になるのではないかと。地方の大学として重要な役割を果たしていかれることに期待する。

(3) その他(1): 積立金の処分に係る中期計画に定める使途に充てられる額の承認について

(事務局)

資料により説明。

(委員)

設立団体が大学院の設置のため確保する予算と法人の努力による剰余金をひとまとめにされると、法人の努力が水の泡になってしまう。どこの自治体も財政が豊かではないと承

知しているが、やはり施設の改善など続けていかないといけない大学なので、法人と対話を重ねて欲しい。

(委員)

学生にとっては、キャンパスライフは非常に重要。食堂や体育館など早期に整備することが必要ではないか。

(青山委員長)

「積立金の処分に係る中期計画に定める使途に充てられる額の承認」について、事務局にて事前確認いただいた結果、承認を受けようとする額及び財源に充てようとする業務の内容に問題はなかった。したがって、承認については、委員会としては適当であると判断する。

(3) その他(2): 評価の基準について

(事務局)

今回の委員会で、第1期中期目標期間の評価を終了した。一つの区切りとして、現在の評価基準について確認をさせていただいた後、法人と評価委員会で意見交換をしていただきたい。

(法人)

今回、高い評価をいただき、感謝申し上げます。評価の基準については、評価委員会としてお決めいただくことだが、第1期中期目標期間の評価を通して検討して頂きたいと感じた点がいくつかある。例えば、全体評価における「A」評価の定義文では「順調に進捗している」との表記に留まり、多くの項目で計画を上回ったことが明示されない点、小項目別評価で「計画どおりに進捗」した場合の全体項目が「B」(概ね順調)、「計画を上回って進捗」した場合の全体評価が「A」(順調)となる点、小項目別評価における評価「4」の「十分な実施」と評価「3」の「実施」の差が分かりにくい点等である。評価結果をご覧になる市民の皆様は法人の成果を正しく伝え、また、教職員のモチベーション向上につながるため、実績を適切に反映する評価システムとなるよう見直しをお願いしたい。

(委員)

評価「5」は、どのような実績があればつけられるのか分かりにくい。客観的に見て、判断できるようなものが分かりやすい。

(委員)

評価されたものを見る側からすると、評価「3」や「B」がついていると、あまり良い評価には見えない。評価「3」、「B」でも悪い評価でないことが分かる表現であればよい。

(委員)

小項目別評価はそれぞれの計画についての評価、大項目別評価、全体評価は中期目標にどれだけ寄与しているかの評価なので、違う観点からの評価ではないか。

(委員)

やはり、各項目の達成度を見ることの指標が適正になったときに正しい評価がつくが、法人や市民に違和感があるということであれば検討が必要だと感じている。

(委員)

せっかく中期目標評価が「A」になっているのに、成果が伝わらない表現になっている。市民の皆様が評価結果を見たときに、「B」であれば法人の成果が伝わらない。例えば、大項目別評価及び全体評価について「A」を「AA」に、「B」を「A」に、「C」を「B」、「D」を「C」にするようなことが考えられる。

(法人)

令和4年度の自己評価にも関わってくるので、なるべく早めに決定いただきたい。

(青山委員長)

本日の意見を参考に事務局において評価基準の案を作成し、年内に開催する評価委員会で基準を決定する。

(4) 閉会